

なかえ とうじゅ
中江 藤樹 (1608~1648)



儒学者。我が国の陽明学の始祖。近江国高島郡小川村(現、滋賀県高島市)出身。通称は与右衛門。9歳のとき、米子藩主・加藤貞康の家臣であった祖父の養子となり、その翌年、藩主の領地替えに伴い喜多郡大津(現、大洲市)へ移住した。祖父の死により家督を相続して15歳で大洲藩家臣となり、独学で朱子学(人を敬うことを忘れず行いを慎んで人格完成しようとする実践道徳)を学んだ。27歳のとき、郷里に住む母への孝養と自身の持病とを理由に、藩士辞職を願い出るが許可されず、脱藩して近江に帰り、酒の小売業で生計を立てながら学問に専念した。

藤樹は、朱子学の教える礼法を厳格に守ろうとしたが、やがて形式的な礼法の実践に疑問を抱くようになり、道徳的な形式よりも精神の方が重要であるとして、「時・処・位」の具体的な条件に応じた適切な正しい行動をとること、またその状況に応じた正しい行動の在り方を自主的に判断する能力を持つことにこそ学問の目標があるとする、自由な道徳思想を唱えた。これは、朱子学の道徳思想を日本社会に適応させようとした藤樹独自の思想である。後に『陽明全集』を手に入れてから「知行合一」を基とする陽明学を研究するようになり、我が国の陽明学の始祖となった。自宅に藤の木があったことから門人に「藤樹先生」と呼ばれた。

大洲市の県立大洲高等学校内には、藤樹の旧邸を模した至徳堂が復元されている。

略歴

| | |
|-----------------|---|
| 慶長13(1608)年3月7日 | 近江国高島郡小川村に生まれる。 |
| 元和2(1616)年 | 藩主加藤貞泰の家臣である祖父の養子となる。 |
| 元和3(1617)年 | 藩主の領地替えにともない、喜多郡大津へ移住。祖父が大洲藩領の風早郡(現、松山市)の代官に任命されたことにより、風早郡へ移住 |
| 元和6(1620)年 | 大津に戻る。 |
| 元和8(1622)年 | 祖父の死により家督相続 |
| 寛永元(1624)年 | 京都の僧による『論語』の講義を聴聞し、儒学を志す。 |
| 寛永11(1634)年 | 近江国に住む母への孝養と自身の持病とを理由に、藩士辞職を願い出るが許可されず、脱藩して帰郷 |
| 寛永16(1639)年 | 『論語郷党啓蒙翼伝』を著す。 |
| 寛永17(1640)年 | 『翁問答』を著す。 |
| 正保元(1644)年 | 『陽明全集』を手に入れる。 |
| 慶安元(1648)年8月25日 | 41歳で永眠 |

(肖像画：愛媛県立大洲高等学校蔵)

〈関連図書〉

- ・田中歳雄『愛媛県の歴史』 山川出版社 1973年
- ・影山昇『愛媛県の教育史』 思文閣出版 1983年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第6巻 中江藤樹・尾藤二洲・近藤篤山』 愛媛教育会 1984年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・高柳俊哉『中江藤樹の生涯と思想・藤樹の現代的意義』 行人社 2004年
- ・中江彰『中江藤樹 人生百訓』 致知出版社 2007年

〈主な収蔵資料〉…(P194, 2)

〈ゆかりのある場所〉…(P264, 2~4)

〈関連施設〉…近江聖人中江藤樹記念館

〒520-1224 滋賀県高島市安曇川町上小川69番地 TEL: 0740-32-0330